

農村伝道神学校学報

学校法人鶴川学院
農村伝道神学校
発行人：ロバート・ウイットマー

未来に向かうために、

過去を振り返る

校長 ロバート・ウイットマー

今年、農村伝道神学校は創立70周年を迎えます。農伝はこれからの道を求めるために過去を振り返る必要があると思います。過去があつて、未来がありますからこれまで経験したこと、また学んだことを受け止めながら未来へのヴィジョンを求めたいです。

農村伝道神学校は1948年4月に日野市の森の中に「中央農村教化研究所」として創立し、1951年に名前が「農村伝道神学校」となりました。当時の目的は自給できる農村伝道者の養成で、そのために家畜を含む農園があつて、一日の流れは午前中は講義を受け、午後は農作業、夜は寮の部屋での自習ということでした。初代の学生は全国から集まり、第一回の卒業生は十一名でした。1952年に保育

科となる女性部を設立し、第一回の卒業生は八名でした。1957年に現在の鶴川に移転し、1959年に東南アジア科が出来、東南アジア諸国の農村開発に携わる専門職員を養成する働きをはじめました。

1970年代に大きな変化が次から次へとありました。1971年に土地の一部を売り、農場をやめ、保育科もやめました。1973年に東南アジア科は農伝を出て、栃木県に移り、そこで「アジア学院」としての新しいスタートをしました。大変な時だったと思いますが、こういう時にこそ神様の恵みが働いていると思えます。

農場がなくなつたとは言え、広い畑は残っていますし、神学生は農業実習を科目

として今も勉強しています。アジア学院が栃木にあつても2011年3月の東日本大震災の時に神学校が協力して、修理をしている間農伝のキャンパスを使用することが出来ました。このようなつながりをこれからも大切にしていきたいです。そのつながりの背景にあるのは「土」との接点だと思います。これこそ農伝が立つ土台ではないでしょうか。

保育科もなくなりましたが、その卒業生は今でも全国的に保育の現場で働き、また様々な形で支えていると思います。それだけではなく、農伝が保育科を閉じたにもかかわらず、多くの卒業生は農伝の使命を信じて献金で神学校の働きを積極的に応援してくれています。そして、関係が深く、また近くにあるシオン幼稚園のスタッフと子どもたちは毎日のように遊ぶために、農伝に來ます。

農伝に神学コースと保育コースの両方があつたと覚える時、幼稚園及び保育所と教会が一緒になつている場合どちらも大切であり、パートナーとして共に歩み、生かし合うための協力関係が必要だと思えます。

2000年から台湾の玉山神学院との交流が始まり、学生が日本に來たり、台湾に行

ったりし、これによってとても豊かな分かち合いと学びの機会となつています。それは教会の情報交換するだけではなく、この交流によって台湾の先住民の現状と課題を知るようになり、日本の先住民であるアイヌ民族を知りきっかけにもなつています。

私はカナダ合同教会に所属する者として、カナダ合同教会との歴史的な関係とこれからのつながりの可能性も大切にしたいと思つています。1948年に「中央農村教化研究所」が創立した時にカナダ合同教会が経済的に協力し、土地は法的にカナダ合同教会の名義にもなつていきましたが、神学校に無償で渡しました。よく知られていることだと思いますが、初代所長（校長）はカナダ合同教会のアルフレッド・R・ストーン宣教師でした。ストーン宣教師は1951年まで校長を務めました。日本に來た1927年から自分の人生を農村伝道に捧げました。農伝をやめてから北海道を中心に働いていましたが、1954年の台風の時に洞爺丸で52才で亡くなりました。その農村宣教への献身とその働きを覚えて農伝の本館は「ストーン記念館」と呼ばれ、その中庭はお連れ合いのジーンさんも覚えて「ジ

ーンズガーデン」と呼ばれています。

カナダ合同教会とのつながりはいろんな所で、いろんな形で実を結んでいます。1970年代と80年代カナダ合同教会は宣教師を海外に派遣するだけではなく、他の国から宣教師を迎える時でした。このプログラムはMutuality in Mission（宣教の相互関係）と言つてお互いに学び合う事を目的に行なわれ、日本から二組を迎えましたが、その両方は農伝の卒業生でした。

1979年から現理事長の禿準一牧師と泰子さんは大西洋側にあるマリタイム教区で2年間働き、多くの教会の人々と日本の宣教と課題を分かち合うことが出来ました。



カナダの学校で日本文化を紹介する禿泰子さんと禿準一牧師（右）

1985年〜88年には星野正興牧師と美雪さん（保育科の卒業生）は私が所属する

五大湖に囲まれているロンドン教区で働き、「農村生活と小規模教会」委員会でも活躍し、とても豊かな分かち合いが出来ました。



星野美雪さんと星野正興牧師（中央）

他にもカナダ合同教会を訪ねたことのある農伝の卒業生は数多くいますが、このようになつながら大切にしながらこれからの新しい可能性も探りたいと思います。現段階でカナダ合同教会の三つの神学校は何かの形で農伝とつながりを持ちたいと言っています。カナダ合同教会の信徒牧師の制度について学び、先住民の神学校を通してカナダの先住民の現状を知り、お互いの教会は今どこに向かおうとしているかを分かち合い、あふれるほどの可能性があると思えますが、この70周年の歴史を覚えつつこれからの道を求めたいと思います。

「新入生紹介」



松本吉氏光

私は、静岡県伊豆半島西海岸に唯一ある松崎教会にて受洗しました。初めて教会を訪ねたのは高校生の時でした。農伝に入学する以前は、福祉の仕事をしていました。信徒宣教師への学びに関心がありますが、まずは全てを委ねて、新しい気持ちで学生生活を歩んでゆきたいと思えます。そして、この学校での出会い、働き、学びを通して自らが問われ、新しく、豊かにされてゆくことを願い、そしてその先に、私に必要な働きが与えられたらと思っています。

校内の敷地には農場があり、そこで作業をし、野菜を育てています。地域の人達や、シオン幼稚園の子ども達の間にもありますので、農作業から得ること、学ぶことは多いです。もちろん、畑で穫れる野菜は美しいですよ。

神学校に送り出して下さった松崎教会のみなさまに、また農伝を支えて下さっているみなさまに感謝し、歩んでゆきたいと思えます。



齋藤織恵

ニューヨークでの生活中にキリストに出会い、その後沖縄で4年間生活しました。すべて自分で決めたのではなく引き合わせのような事によつての不思議な道のりでしたが、後から振り返ればすべて必要なピースだったように感じられ、その延長に今ここの農村伝道神学校に導かれたように感じています。今まで神学校という場所は開かれた場所というイメージはあまりなかったのではないかと思います。ですから自分にはあまり関連がないと思っていました。引越しいろい生活の中、自分が住む地域の教会で貢献したく家から一番近くにある教会に赴き続けた結果神学校に通う機会が与えられました。農村伝道神学校で学ぶことは今まで自身が取り組んできた思い「社会の現場の中に身を置くこと」を活かせると同時に、今まで抱えてきたキリスト教に對する問に取り組める、もっと自由で生き生きとした福音の解放がもたらされるのではないかと感じています。これを書いてるのは前期が終



清野量

わった夏休みの始めの時です。既に会った多くの気づきがあり、宗教改革は未だ道の途中との言葉が心に響き、キリスト者としてこれからはどう生きるのか、その生き方、役割が具体的に示されるように祈っています。学びに導いていただけたことを感謝致します。

私は茨城県守谷市にあります。日本キリスト教団・守谷伝道所で2013年に洗礼を授かりました。ですがキリスト教との繋がりは受洗以前からありました。曾祖母・祖母は日本キリスト教団の信徒でしたし、大病を患った祖母を訪ねて祖母の自宅に牧師さんが訪ねてくることもありました。また大学時代は北海道のキリスト教主義の大学で環境学・生態学を学びました。キリスト教とは長い時間の繋がりがありましたが、受洗に時間がかかったのはイエスの御言葉を受け入れる覚悟が私の中になかったのと、私自身がキリスト教に頼らずとも生きていけるといふ傲慢を持っていたからです。そんな私が受洗



鳥潟紘一

し、農村伝道神学校で学ぶ機会を与えられたのには、イエスの導きの不思議さを感じずにはいられません。

農伝では解放の神学を学びながら、大学時代に学んだ環境学・生態学と解放の神学との繋がりを学んでいきたいと思っています。

鳥潟紘一と申します。学生時代より教会に通い始め、卒業後神学を学びましたが、当時はキリスト教の輪郭さえ覚えられず、思えば白紙にひたすらメモを書き込むような気分だったと思えます。牧師を目指す気持ちはありましたが、神学を学び聖書を読みふいに現れるのは自分の問題で、人生論だか幸福論だか、砂を詰めまくった土囊みたいな頭を少しでも軽くしてくれる理屈探しをしていたかもしれません。一人の留学生に学ぶ理由を問われたことがありましたが、「興味」と答えましたが、「教えるために勉強しなきゃ」と返されました。自己完結の学びではなく伝えるための学びを、広げ役立たせるための勉強を、なさいと。社会人として働くなか、

聖書の言葉が他者との関わり
なかで躍動することに気付か
れます。いつ頃からか自分を
目的とした信仰から、他者との関

わりの基礎としての信仰に自分
が移っていった気がします。もう
一度キリスト教にチャレンジさせ
て下さい。

第三九回 戦争責任シンポジウム

三年 山田原野

今年の戦責シンポは6月5
日(火)にカトリックの神父
である浜崎眞実さんを迎えて
行われました。まずは、私の
とても個人的な感想を書かせ
てください。私は幼少の頃か
らキリスト教の世界に親しん
できたわけではないので、カ
トリックの神父がどんな人な
のか、全然想像がつかないで
いました。それこそ、神父と
いえば悪魔祓いのイメージが
強烈にあつてなんだか特殊な
人のような気がしていました。

「戦争責任について」カトリ
ックとしては基本的に何も考
えていません。」
などカトリックの神父である
浜崎さんからカトリック教会
に対する遠慮のない言葉が出
てくる講演となりました。農
村伝道神学校では戦争責任の
問題は、これまでも様々な視
点から多くのことが論じられ
てきたと思いますが、カトリ
ックの側、それも現役の司祭
の口から話をしていただく機
会はなかったのではないかと
思います。そのためか、質疑
応答も多くの質問や感想が上
げられました。その中から一
つ紹介いたしますと、

今回、浜崎神父を間近で見て、
ああ、普通の人なんだ、と思
いました。

「浜崎神父は日本基督教団の戦
争責任告白をとっても評価して
いるが、決して思いを一つに
できているわけではない。日
本基督教団の中でも戦争責任
告白に対する評価は分かれて
いる。そのことについてはど
う思うか？」
という質問に対して浜崎さん
は

「カトリックは(戦争責任以外
にも様々な問題に対して)間
違ってました、となかなか言
わない。」

「確かにそうかもしれないが、
なにも出されていないカトリ
ックの側からみると、やはり
評価に値する。」
答えておられました。それで
も、日本基督教団の側の人た
ちも色々な思いがあり、この
後も意見や疑問が出されまし
て、第一部の時間いっぱい使
って議論が交わされました。
午後からの第二部では「沖

縄の基地をヤマトで引き受け
る活動とは」というテーマで
お話してくださいました。浜
崎さん自身が沖縄の問題に長
く関わる中で、連帯している
つもりでも沖縄を消費してい
たのだ、と理解した経験から
このような活動を行っている
そうです。非常にデリケート
で難しい問題で、参加してい
た私たちの口も重くなってい

まった時もありました。
今回の戦責シンポは、カト
リックの神父がプロテストタ
ントの神学校でお話してくだ
る、という大変貴重な機会と
なりました。ご多忙の中、私
たちの依頼を引き受けてくだ
さった浜崎眞実神父への感謝
で報告を終えたいと思います。
浜崎神父、本当にありがとう
ございました。

農伝の歴史を写真で見る — 1948年～1960年



A・R・ストーン宣教師
初代の所長



中央農村教化研究所開所式
1948年4月14日



1956年(第6回)卒業式



農場風景 ① 1958年



農場風景 ② 1960年

学事報告

七月二日～四日

神学科同窓会総会 熊本にて

修養会

七月十一日(木)～十二日(金)

テーマ:「ハンセン病の歴史と現状」

十一月 映画「あん」鑑賞

講義「ハンセン病の歴史と現状」

講師 藤崎陸安(ふじさき)

みちやす)氏

十二日(金)

国立ハンセン病資料館見学

「全生園」見学

七月二一日(火)～二七日(木)

集中講義1:世界キリスト

教師史(大倉一郎)

七月末より九月半ばにかけ

て下記の通り夏期実習を行

い、学生を派遣した。

下園昌彦・NPO法人在日外国人教育相談センター・信愛塾

清野量・日本基督教団部落解放センター

稲益久仁子・日本基督教団脇本教会、男鹿教会、会津高田教会

上杉理絵・日本基督教団横浜二ツ橋教会(山崎牧師の担当する病院にて)

Clinical Pastoral education を行う

横内美子・マニラ、セブの

アライカバ共同体でのシスターとの協働作業

松永明夫、山田原野・台湾玉山神学院

2018年第一回理事会・評議員会(5月29日)以降に開催された三回の常務理事会

理事・評議員会報告

7月11～12日の二日間、神学校の修養会が開催され、「ハンセン病の歴史と現状」について講演を聴き、多摩全生園を訪問するプログラムが実施

された。

で協議された内容にもとづいて報告する。

神学校では、恒例の戦争責任シンポジウムが6月5日に開催され、浜崎眞実司祭を講師として招き、「カトリック教会は第二次大戦下における戦争責任をどのように考えてきたか」、「沖縄の基地をヤマトで引き受ける活動とは何か」について講演を聴き、討議を行った。神学校同窓会は7月2日から4日まで熊本で23名の参加者が集まり、ウイットマー校長の講演を聴き、近隣の被災した諸教会を問安し、交わりを深めたとの報告があった。

ウイットマー校長は7月にカナダ合同教会の総会に出席し、今後、農伝とカナダ合同教会及び合同教会の神学校との協力の可能性について打診し、今後の課題として報告した。11月にはカナダ合同教会より、信徒宣教師が来日し、農伝にも滞在する予定。シオン幼稚園からは認定子ども園として7、8月は1、2歳児の保育のためにシフトを組んで対応し、職員の研修、休暇を配慮して夏期の勤務体制を実施したとの報告があった。法人関係では、新校長の補佐として前校長の高柳富夫教師をあてることを了承した。2018年度は神学校の創立70周年にあたり、記念事業や行事を計画し、推進するため創立70周年委員会(仮称)

を発送させることを承認した。委員会の招集者として禿理事長が中心となり、神学校、保育科の同窓会、教師会、理事会・評議員会から委員を選出し、具体的な計画と事業内容を協議し提案することにした。2018年度から2019年度にかけて2年間にわたる事業内容とすることも話し合われた。(書記:本田栄一)

2019年度入学案内

◆受験資格

- (1) 日本基督教団に限らずプロテスタント教会に所属し、原則として受洗後1年以上(洗礼式を行わない教派については、それに準ずる)の教会生活をしている者。
- (2) 所属教会が推薦し(可能であれば)、高卒または同等以上の学力を有すると認められる者。

◆修業年限

- 神学基礎コース: 2年間(2年間で修了することも可)。
- 基礎コース修了後、神学専門コースに進むことができる。
- 神学専門教職者養成コース: 2年間
- 神学専門信徒宣教師養成コース: 1年間または2年間

◆学費

- 入学金 60,000円(入学時のみ)
- 授業料 240,000円(年額)
- 設備費 30,000円(入学時のみ)

◆受験手続

次の書類を期日までに郵送または持参する。

- (1) 入学願書(本校指定の書式)
- (2) 履歴書(本校指定の書式)
- (3) 教会(牧師または役員会)の推薦書(可能であれば)
- (4) 最終学校卒業証明書(または卒業見込み証明書)
- (5) 受験料 10,000円(振り込み)

◆入学願書受付

- 第1回 2018年10月9日(火)～11月9日(金)
- 第2回 2019年1月8日(火)～2月8日(金)

◆入学試験日時

- 第1回 2018年11月20日(火) 午前9時～午後3時
- 第2回 2019年2月19日(火) 午前9時～午後3時

◆会場 本校教室

◆入学試験科目 (1) 小論文 (2) 旧約聖書・新約聖書 (3) 面接

◎入学願書一式、過去の試験問題集は、本校事務室まで請求ください(無料)。

お知らせ

十月二十日(土) 農伝デイ・オープンキャンパス
 午前十時半～午後二時
 午前十時半～十一時半
 講演会:「農伝七十周年 農村伝道の原点」
 ロバート・ウイットマー 本校校長(礼拝堂にて)
 十二時～十四時 交流タイム

農村伝道神学校
 〒195-0063 東京都町田市野津田町 2024
 Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711
 Eメール: noden@pony.ocn.ne.jp
 ホームページ: http://www.noden.server-shared.com
 振替番号
 農村伝道神学校 00160-6-18485
 農村伝道神学校後援会 00120-6-24418